

学習指導要領に示された本単元に関わる目標及び内容

1 第1学年及び第2学年の目標

- (1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。
- (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 内容

[知識及び技能]

- ア 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。
- イ 音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。
- ク 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。

[思考力・判断力・表現力等]

C 読むこと

- イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。
- エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。

本単元では、[知識及び技能]はク、[思考力・判断力・表現力等]はエを中心に指導する。



本単元に主に関わる10の姿

- (3) 協同性
友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
- (6) 思考力の芽生え
身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
- (9) 言葉による伝え合い
先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
- (10) 豊かな感性と表現
心を動かす出来事などに触れ、感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。



附属幼稚園での様相

日常での遊びの中から抱いた興味や関心と、絵本の内容とを結び付けながら、自分たちで発表会とする劇を考えていった。その中で、どのようにすれば自分たちがイメージしたことが伝わるか、それぞれの思いを伝えたり、実際にやってみたりし友達と試行錯誤しながら、常によりよいものを目指して、改善していく姿が見られている。

A児に関して (心の支援部 SCより指針ー2月合同ケース会にてー)

- ボディイメージの強化による自尊心アップ
身体の動きや感覚受容を強化し、遊びや活動を充実させることで、自尊心アップ(自己のイメージの向上)をはかる。

第1学年東組 国語科学習指導案 学習指導者 尼子 智悠・支援員 二宮 奈海

1 単元「登場人物の行動を想像して劇で表そう ～『とん こと とん』～」

【互いに磨き合い、学び続ける子供の姿】

『とん こと とん』を劇で表すために、言葉による見方・考え方を働かせて、物語のそれぞれの場面で、登場人物がどのように行動するかを具体的に想像し、友達と話し合いながらより物語の場面の様子に合った人物の行動を具体的に想像している。

本単元では物語『とん こと とん』を読んで登場人物の行動を想像し、それを劇で表し学級で発表会をすることを言語活動として設定する。劇で登場人物の行動を表すことは、幼児期に親しんでいることや、言葉と共に動作を交えながら自分の思いを表現、交流できるという特徴があることから、幼児期から育ってきた「協同性」「思考力の芽生え」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」などの姿を生かせるものであると考え。また、劇で登場人物の行動を表すことを目標とすることで、子供たちは各場面で登場人物が何をしたのか、どのような表情・口調・様子だったのかを具体的に想像したり、行動の理由を想像したりしていく。

本実践では、登場人物である「ねずみ」と「もぐら」の行動を叙述を基に想像して二人で分担して演じる。子供たちは、「最初の場面では、『おかしいな。なんだろう』と言っているから不思議そうに首をこしょう（首をかしげる）。下から聞こえてくる音が気になっているから耳を下に向けよう」などと、言葉の意味、働き、使い方等に注目し登場人物がどの場面で、どのように行動するかを考えていく。そして、それぞれが想像した行動について話し合う中で「〇〇さんが言っているように、床のさらに下が気になっているからもっと床に耳を近づけて聞こう」などと表情・口調・様子という面から、より物語の場面の様子に合った行動を具体的に想像していくのである。

2 単元計画（総時数 5時間）

はじめに幼児期に劇をした経験について想起させたり、スタートカリキュラムで朝の時間にしているごっこ遊びとも関連付けたりし、ある人物になりきることの楽しさを想起させる。また、四時間目に、他のペアとお互いの劇を見合いそのよさなどを見つけて自分の劇に生かす時間を位置付け、様々な叙述の捉え方を視覚的に受け取れるようにすることで、自分の想像を再考していくことにつなげる。

次	学習の流れ及び主な子供の意識
一	<p>① 劇の発表会をする計画を立てよう</p> <p>なかよしタイムでのごっこ遊びや幼児期に劇をして楽しかったことを想起したりして、『とん こと とん』の物語も劇で表したいという思いをもつ。そして、劇で発表会をする計画を立てる。</p>
二	<p>② 誰がどんなことをするのか読もう</p> <p>物語を読んで、どんな登場人物が出てくるか、各場面で、誰が、どうして、どうなったかなどについて把握し、物語の内容を大づかみに捉える。その際には、叙述やそれぞれの経験を基に、言葉や動作によって自分が思ったことや感じたことを伝え合おうとする。</p> <p>③ 二人で練習しよう</p> <p>登場人物になりきって、どのような動きをすればお話が伝わるかと考えていく。幼児期から芽生えてきている思考力を発揮しながら、登場人物の行動を具体的に想像し、劇での自分の動きを工夫していく。</p> <p>④ ためしの劇を友達に見てもらおう (本時4/5)</p> <p>幼児期から育ってきた豊かな感性と表現を発揮し、叙述にある言葉についてその意味等を捉えたり捉え直したりしながら、劇での互いの表現を見て自分が思ったことを言葉や動作で伝え合うことで協同性を育み、より場面に合った登場人物の行動を具体的に想像していく。</p>
三	<p>⑤ 発表会をしよう</p> <p>発表会で、できた劇を見合いそれぞれの感想を伝え合う。</p>

3 本時について

目 標	登場人物の行動を叙述を基に具体的に想像し、どのように動けばよいか考え友達とその動きについて話し合うことで、より場面の様子に合った登場人物の行動を具体的に想像できる。
--------	--

	学習活動	子供の意識
課題設定以前	1 学習課題を確認する。 【できたねボード】	<p>自分たちがつくった「あいうえおのうた」を歌うのは楽しいな。今日の国語も楽しくなりそうだよ。</p> <p>ねずみやもぐらになりきって動けそうだよ。</p> <p>動きは考えたけれど、まだ、分からない所があるよ。</p> <p>これで、様子が伝わるかどうか友達に見てもらいたいな。</p> <p>分からないところは、友達に聞いてみたいな。</p>
	ためしの劇を友達に見てもらおう	
課題解決中	2 教師が見せた劇について、よかったところや、改善点を話し合う。	<p>先生の劇はどのようにするのか。楽しみだな。</p> <p>散歩から帰って来たようにゆっくり歩いて来たのがいいね。</p> <p>「おかしいな」のところは笑顔ではなく、困ったような顔で言っただけじゃない。</p> <p>床の下のもぐらも、がたがた音がするよ。うに動いたらどうかな。</p> <p>初めに、散歩から帰ってくると書いてあるからね。</p> <p>「おかしいな」というのは、不思議に思っているからだよ。</p> <p>がたがた聞こえてくるのはもぐらが下にいるからだよ。</p> <p>自分たちの動き方も、もっとよくなるかな。</p>
	3 自分たちの劇の動きについて、グループをつくり他のペアの友達と話し合う。 【見て見てタイム】 グループ	<p>ねずみが床をたたく所はこれでどうかな。</p> <p>誰かが扉を叩いた所はこれでどうかな。</p> <p>3回叩いているように動いているところがいいね。</p> <p>とんこととんのは、耳を床に近づけたら、いと思うよ。</p> <p>もぐらが扉を叩いているように動いているといいね。</p> <p>「よろしくね」は笑顔で頭を下げたらどうかな。</p> <p>「とん」「こと」「とん」だからね。</p> <p>下から何か聞こえてくるか知りたいからね。</p> <p>ここは「とん」「こと」「とん」じゃないね。</p> <p>よろしくという気持ちも伝わるからだよ。</p> <p>友達がほめてくれて、うれしかったよ。友達がアドバイスしてくれたところは、やってみよう。</p>
	ペア① 1つの場面を演じる ペア② 地の文読む ペア③ 見る人 ①②③を交代しながら	
課題解決後	4 本時の学習を振り返る。【できたかなカード】	<p>友達と一緒に考えたから、ねずみ（もぐら）さんになりきれたよ。もぐら（ねずみ）さんの動きも分かったよ。</p> <p>次は発表会だ。楽しみだな。家でも練習しよう。</p>

評価	叙述を基にねずみやもぐらの行動を想像し、友達とその動きについて話し合うことで、はじめの動きに比べて、より場面の様子に合った表情・口調・様子を具体的に想像している。 【方法：発言、劇】
----	---

4 子供の実態とメタ認知を促す働きかけの詳細

<子供の実態>

幼児期の発達段階という点から、前時にどのようなことをしたか、本時にしようとしていたことは何かを思い出すことが難しい。また、朝のなかよしタイムでの活動を見ていると、自分の思いを言葉によって伝えることができている姿が見られる子供が多いものの、言葉で伝えたり言葉で伝えられたことをイメージしたりすることを苦手としている子供も数名見られる。その中には、次に何をするのが気になって不安になり、所構わず教師に尋ねることが多いA児もいる。また、丸亀の幼稚園からの入学で、知っている友達もおらず不安感が強いB児もいる。現在はなかよしタイムによって少しずつ仲が良い友達ができているものの、未だに不安感は拭えない。

～課題設定以前～ **学習活動1**

学習に入る前に、普段も国語の授業のはじめに歌っている子供たち自作の「あいうえおのうた」をリズムに合わせて歌う。そうすることで、「今から国語の授業が始まるんだ。楽しみだな」という意識を高め、スムーズに国語の学習に入っていけるようにする。また、本単元の導入で立てた学習の計画を、文字として補助黒板に示すだけでなく、単元のめあてやそれまでにどのようなことを学習してきたのかを実際の活動の写真やイラストなどを使って示して確認する。【できたねボード】(2～5時間目) そうすることで、文字だけでは様子をイメージすることが難しい子供も、本時までにはどのようなことができるようになったのか、本時しようとしていたことは何かを思い出せるようにして課題設定の理由を表出できるようにする。また、1時間の流れを小黒板に示し、この1時間でどのようなことをするのが、一目で分かるようにしておくことで、見通しをもって誰もが安心して学習に取り組むことができるようにする。

～課題解決中～ **学習活動2**

言葉だけでは様子をイメージしにくい子供たちや、自分が次にすることが分からなくて不安になる子供たちのために、まずは、教師が劇を見せ、自分がまねしたいところはどこか、もっと登場人物になりきるにはどうすればよいかを問いかけ、実際に動きながら想像させる。(支：もぐら役として、T1と一緒に劇をして、A児を含めた全ての子供たちにペアですることが視覚的に分かるようにする) そうすることで、学習活動3での活動を経験することになり、自分たちがどのようなことについて話をすればよいか見通しをもって学習活動3に取り組むことができるようにする。また、その際には、どの叙述からそう思ったのか尋ね、叙述を基に話ができるようにする。

学習活動3

友達と劇を見合う際には学習活動2で行ったことを想起させる。そして幼児期から育ってきている協同性をさらに育てていく視点から、良い動きのまねをしたらより話に合う動きになったことを確認し、自分たちもお互いに見合っただけで動きをよくしようという意識を高める。その際には、まねしたいお話に合った動きやもっとお話に合う動きを、実際に動きながら話し合うようにする。【見て見てタイム】(4時間目) (支：B児を中心とした友達に話すことに不安感がある子供に寄り添い仲立ちしたり、どうしてそうしようと思ったのか尋ねて回ったりする) 「もぐらがうれしそうに上を見ているところがいいね」などとまねしたいと思うところや「ねずみが返事を待っているように耳を床に付けたらいいんじゃない」などとさらにお話に合う動きを探すことで、自然と今の自分の動き方と友達の動き方を比較でき、メタ認知の素地を養うことにつながると考える。

～課題解決後～ **学習活動4**

本時の終末に、「前よりもねずみやもぐらになりきれたか」という観点で本時の活動を振り返る。その際には、「できた」「少しできた」「あまりできなかったからつぎはがんばりたい」の3項目を表情と文字で表したものを使用する。**【できたかなカード】(3～5時間目)** また、次にしたいことを問いかける等し、自分ができたことを改めて振り返り次時の学習につなげていけるようにする。



【○を付けて振り返る】